

病欠・発熱の園児は何人？

流行状況に応じた早めの
対策が可能になる。

参加しているのは5月

保育園ごとに病欠や発熱、下痢などの症状がある園児の人数をインターネット経由で入力するシステムを、国立感染症研究所感染症情報センターが開発した。一定地域の保育園が一斉に利用すれば、インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行をいち早くとらえられ、対策に有効という。

システムは同センターが運営。保育園の担当者は毎日、欠席者数や欠席

保育園ごと把握 流行に早期対応

理由、登園後に発熱、頭痛、下痢、嘔吐（おうと）などの症状があった園児の人数を入力する。園ごとに集計表やグラフが自動作成され、欠席者などが一定数以上になると、注意喚起のため園医らに自動で電子メールが届く。

システムに参加すると、近隣の学校での欠席状況も知ることができる。自治体の担当者は、地域の

現在、全国でまだ約30園だが、一部の自治体では管内の保育園への一斉導入の検討を始めた。

小さな子供が多く集まる保育園は、多くの感染症の原因となるウイルスや細菌の受け渡し場所になり、地域に感染が広が

っていることが多く、同センターは、システムを拡大防止に役立ててもらいたい考えだ。

国立感染症研がシステム